

事業承継で社長人生に幸せを

今どんなに元気な社長でも必ず社長を退くが時期がやってきます。自分の子供以上に大事に育てた会社を「誰にどのように引き継いでいくべきか」と悩んでいる社長は多いのです。社長の「辞め方」は本当に難しい。

日々の業務に忙しい社長は誰にも相談できず解決策もなくただ時間が過ぎてしまい結局何の対策もとれないでいるのが実情です。

たとえ後継者に恵まれている幸運な社長であっても、「退職金」、「引継ぎ方法」、「後継者教育」といったことで悩みは尽きません。

まだ後継者が決まっておらず事業承継を真剣に考えている社長、「後継者がもう少し育ってから」とか「まだまだ自分は元気だ」などと勘違いしている社長！即相談実行！お願いします。

事業承継の方法は **3** 通り、生涯 **1** 度の重大な経営判断です。

譲渡

後継者に事業承継する

売却

市場で事業譲渡する

廃業

残念ながら廃業する

すべての社長の悩みどころ

能力の無い息子に継がせるべきか
息子をどのタイミングで会社にもどるか
取締役である息子をいつ社長にするべきか
子飼の専務に譲ると私の給料はどうなるのか
同業他社の有能な社長候補を引き抜けないか
他人に譲るときに株はどうすべきなのか

すべての社長の悩みどころ

会社はいつのタイミングで売るべきか
一体いくらで売れるものなのか
従業員や取引先との関係は大丈夫か
売ってから何年かは会社と関われないか
会社の名前はどうか
株主が分散しているがどうしたらよいか

すべての社長の悩みどころ

手元にお金が残るのだろうか
従業員や取引先に迷惑をかけないだろうか
辞めた後の生活は大丈夫か
いつやめるのが最適であろうか
ひとりで何とか続けられまいだろうか
やめた後はどうしようか

ウソみたいな本当の事例

創業から60年、2代目社長として会社を30年守り従業員200人の会社に育ててきた。あと10年現役だと自他共に思っていた。しかし、ある日突然、病になり急遽同業他社で修行させていた息子と呼び寄せて社長に。業務経験も浅く会社内部での評価も未知数なうえ、古参役員達からの賛同も得られず、社外環境も厳しい中を継がせる結果となり、売上が半減し、銀行からも見捨てられる結果に。

(江戸川区 製造業 62歳)

ウソみたいな本当の事例

小売業を営み関東近県40店舗を運営してきた。事業継承でいったん息子に事業を譲り会長に退いたが、社外環境が厳しいうえ、業界自体が成熟し当面は大丈夫でも3年後は生き残れないのではないかと絶えず心配していた。生き残りの為、会長は以前より懸念にしていた同業大手の社長と相談し、事業統合を決断した。銀行保障からも解消され、息子も大手の事業部長として残ることになった。

(豊島区 小売業 79歳)

ウソみたいな本当の事例

創業から36年、高度成長期の中を妻と苦勞しながら何とか事業をやってきた。銀行融資を受けられず親戚中を頭下げて周ったこともあった。子供は3人いたが事業を継いでほしいと言った事もなく、それぞれが別の職種で活躍している。最盛期に比べて売上も3分の1になったが、事業自体に魅力が薄れ時代の流れを実感し、まだまだ体が元気なうちに廃業することを決心した。

(台東区 サービス業 62歳)

社長は皆**同じ悩み**を抱えています。しかし、その対策は**千差万別**です。

無料相談へお電話ください。まずはお話お聞きしましょう。